

令和 3 年食中毒発生状況の概要について

令和 4 年 5 月 31 日

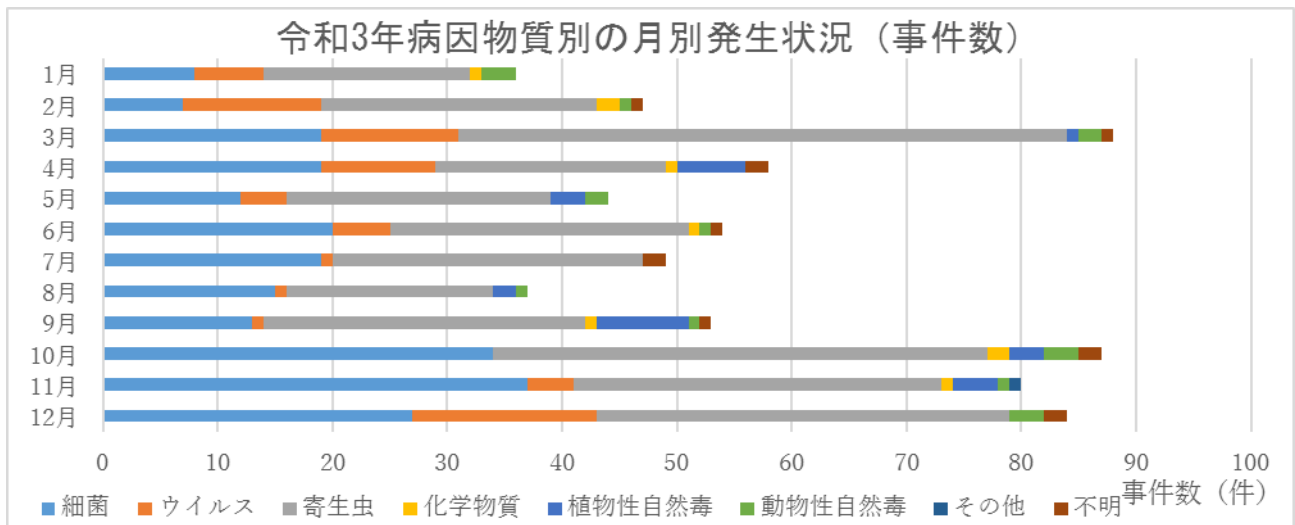
厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課

1. 発生状況（事件数, 患者数, 死者数）

- 令和 3 年に国内で発生した食中毒事件数は 717 件（対前年-170 件）、患者数 11,080 人（対前年-3,533 人）、死者数 2 人（対前年-1 人）であった。
- そのうち、患者数 2 人以上事例は、340 件（対前年-112 件）、患者数 10,703 人（対前年-3,475 人）であり、全体の事件数の 47.4%、全体の患者数の 96.6%を占めていた。
- 患者 500 人以上の食中毒は 2 件（4 月：ノロウイルス、6 月：病原大腸菌）発生している（対前年-1 件）。
- 死者数 2 人の病因物質は、それぞれ植物性自然毒及びサルモネラ属菌であった。

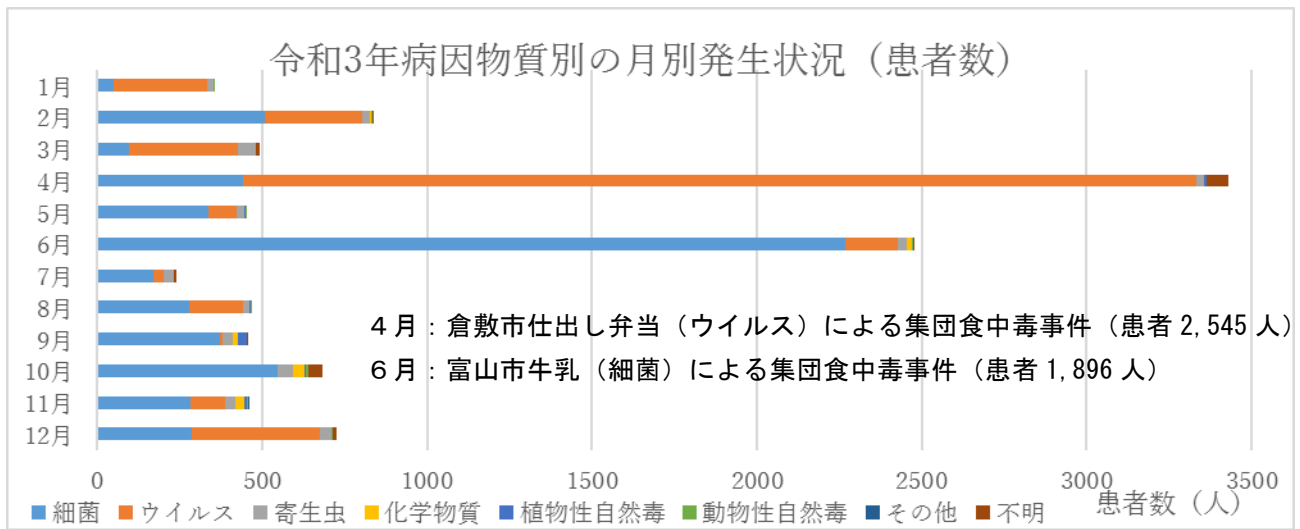
2. 月別発生状況

食中毒事件の発生が最も多かった月は、3月の 88 件（12.3%）で、次いで 10 月の 87 件（12.1%）、12 月の 84 件（11.7%）の順であった。患者数では、4 月の 3,428 人（30.9%）、6 月の 2,479（22.4%）、2 月の 839 人（7.6%）の順で多かった。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	8	7	19	19	12	20	19	15	13	34	37	27
ウイルス	6	12	12	10	4	5	1	1	1	0	4	16
寄生虫	18	24	53	20	23	26	27	18	28	43	32	36
化学物質	1	2	0	1	0	1	0	0	1	2	1	0
植物性自然毒	0	0	1	6	3	0	0	2	8	3	4	0
動物性自然毒	3	1	2	0	2	1	0	1	1	3	1	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
不明	0	1	1	2	0	1	2	0	1	2	0	2
合計	36	47	88	58	44	54	49	37	53	87	80	84

図 1：令和 3 年月別発生状況（事件数）



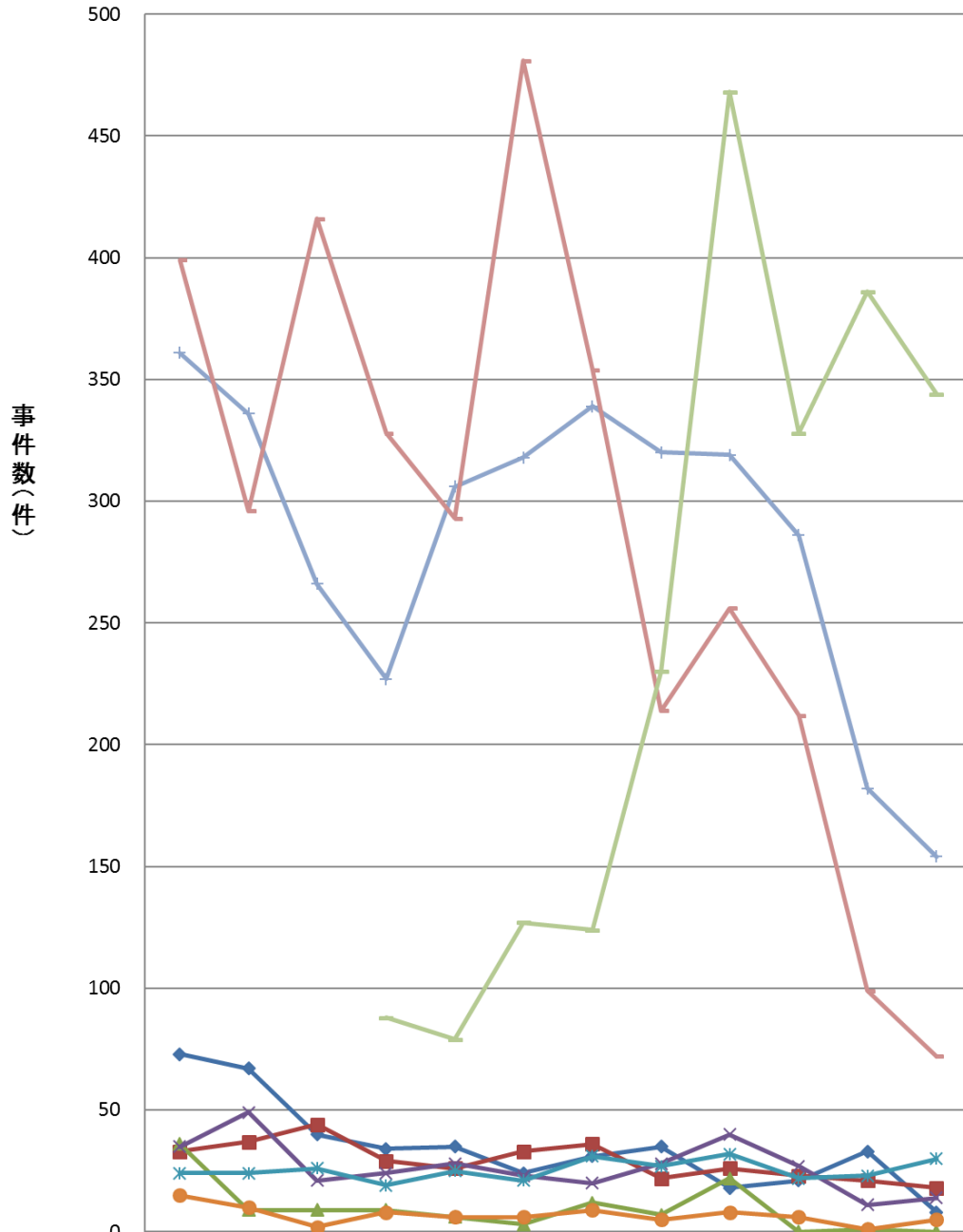
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	49	508	97	443	337	2268	171	277	372	546	284	286
ウイルス	282	294	328	2891	87	159	31	165	7	0	102	387
寄生虫	21	26	54	20	23	26	30	19	30	48	33	38
化学物質	1	4	0	2	0	16	0	0	17	33	25	0
植物性自然毒	0	0	1	9	4	0	0	3	27	7	11	0
動物性自然毒	5	1	2	0	3	3	0	1	1	5	1	4
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
不明	0	6	11	63	0	7	9	0	2	42	0	10
合計	358	839	493	3428	454	2479	241	465	456	681	461	725

図 2：令和 3 年月別発生状況（患者数）

3. 病因物質別発生状況

- 病因物質別の事件数を見ると、アニサキス（344 件、48.0%）、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ（154 件、21.5%）、ノロウイルス（72 件、10.0%）の順が多かった。また、病因物質別の患者数は、ノロウイルス（4,733 人、42.7%）、病原大腸菌（2,258 人、20.4%）、ウエルシュ菌（1,916 人、17.3%）の順が多かった（図 3、4）。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例の病因物質別の事件数を見ると、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ（139 件、40.9%）、ノロウイルス（72 件、21.2%）、ウエルシュ菌（30 件、8.8%）の順が多かった。また、患者数 2 人以上の事例の病因物質別の患者数は、ノロウイルス（4,733 人、44.2%）、病原大腸菌（2,257 人、21.1%）、ウエルシュ菌（1,916 人、17.9%）の順が多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数 9 件（1.3%）、患者数 42 人（0.4%）、死者 0 人であった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、ノロウイルスとカンピロバクターにおいて事件数は高い値で推移している。
- 平成 25 年 1 月より寄生虫（クドア、サルコシスティス、アニサキス、その他の寄生虫）についても食中毒事件票に病因物質種別として追加した。それぞれの病因物質による事件数と患者数は、クドアが 4 件 14 人、アニサキスが 344 件 354 人、サルコシスティスの発生はなかった。

全体の食中毒事件数の年次推移



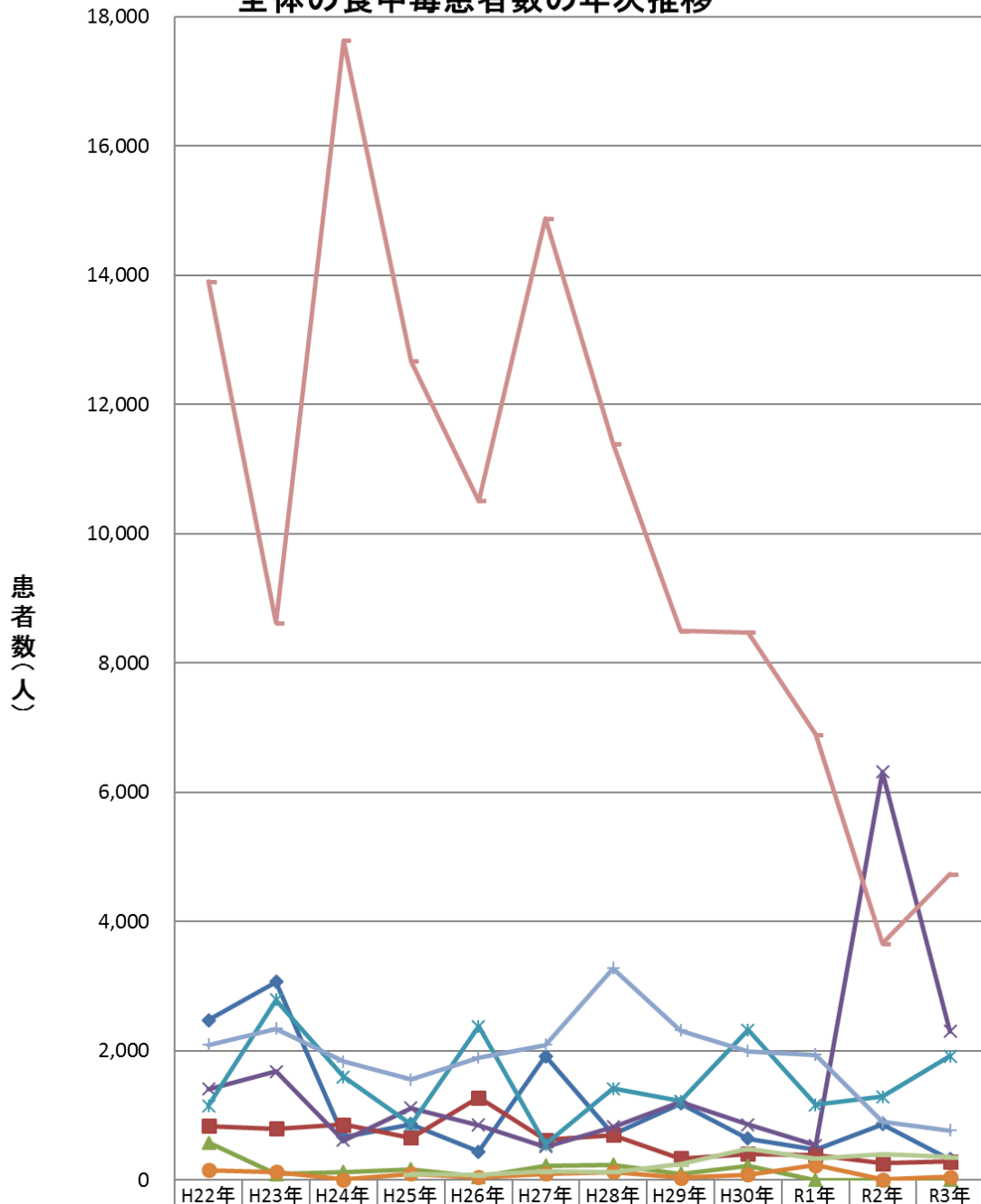
	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
◆サルモネラ属菌	73	67	40	34	35	24	31	35	18	21	33	8
■ふどう球菌	33	37	44	29	26	33	36	22	26	23	21	18
▲腸炎ビブリオ	36	9	9	9	6	3	12	7	22	0	1	0
✕病原大腸菌*	35	49	21	24	28	23	20	28	40	27	11	14
✱ウエルシュ菌	24	24	26	19	25	21	31	27	32	22	23	30
●セレウス菌	15	10	2	8	6	6	9	5	8	6	1	5
◆カンピロバクター	361	336	266	227	306	318	339	320	319	286	182	154
—ノロウイルス	399	296	416	328	293	481	354	214	256	212	99	72
—アニサキス				88	79	127	124	230	468	328	386	344

<※腸管出血性大腸菌を含む>

<平成 25 年よりアニサキスは食中毒統計において個別に集計されている。>

図 3：平成 22～令和 3 年食中毒事件数推移

全体の食中毒患者数の年次推移



	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年
● サルモネラ属菌	2,476	3,068	670	861	440	1,918	704	1,183	640	476	861	318
■ ぶどう球菌	836	792	854	654	1,277	619	698	336	405	393	260	285
▲ 腸炎ビブリオ	579	87	124	164	47	224	240	97	222	0	3	0
✕ 病原大腸菌*	1,406	1,681	611	1,112	847	518	821	1,214	860	538	6,314	2,300
✧ ウエルシュ菌	1,151	2,784	1,597	854	2,373	551	1,411	1,220	2,319	1,166	1,288	1,916
● セレウス菌	155	122	4	98	44	95	125	38	86	229	4	51
✦ カンピロバクター	2,092	2,341	1,834	1,551	1,893	2,089	3,272	2,315	1,995	1,937	901	764
— ノロウイルス	13,904	8,619	17,632	12,672	10,506	14,876	11,397	8,496	8,475	6,889	3,660	4,733
— アニサキス				89	79	133	126	242	478	336	396	354

<※腸管出血性大腸菌を含む>

<平成 25 年よりアニサキスは食中毒統計において個別に集計されている。>

図 4：平成 22～令和 3 年食中毒患者数推移

4. 原因食品・施設別発生状況

- 原因食品・食事の判明したものは、事件数 535 件(74.6%)、患者数 10,572 人(95.4%)であった。
- 原因食品別の事件数を見ると、魚介類(223 件、31.1%)、複合調理食品(41 件、5.7%)、肉類及びその加工品(31 件、4.3%)の順で多かった(「その他」を除く。以下この項において同じ。)。また、原因食品別の患者数は、乳類及びその加工品(1,896 人、17.1%)、複合調理食品(1,039 人、9.4%)、魚介類(335 人、3.0%)の順で多かった。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例における原因食品別の事件数を見ると、複合調理食品(36 件、10.6%)、肉類及びその加工品(30 件、8.8%)、魚介類(24 件、7.1%)の順で多かった。また、患者数 2 人以上事例における原因食品別の患者数は、乳類及びその加工品(1,896 人、17.7%)、複合調理食品(1,034 人、9.7%)、野菜及びその加工品(201 人、1.9%)の順で多かった。
- 原因施設の判明したものは、事件数 516 件(72.0%)、患者数 10,390 人(93.8%)であった。
- 原因施設別の事件数を見ると、飲食店(283 件、39.5%)、家庭(106 件、14.8%)、販売店(40 件、5.6%)の順で多かった。また、原因施設別の患者数は、仕出屋(3,010 人、27.2%)、飲食店(2,646 人、23.9%)、製造所(2,127 人、19.2%)の順で多かった。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例における原因施設別の事件数を見ると、飲食店(196 件、57.6%)、事業場(31 件、9.1%)、家庭(27 件、7.9%)の順で多かった。また患者数 2 人以上の事例における原因施設別の患者数を見ると、仕出屋(3,009 人、28.1%)、飲食店(2,559 人、23.9%)、製造所(2,127 人、19.9%)の順で多かった。

5. その他

令和 3 年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省医薬・生活衛生局ホームページ「食中毒に関する情報」

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html) で公開している。